

# CIRJE Newsletter

東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターニュースレター

No.17

2012年4月

Center for  
International Research  
on the Japanese Economy  
Faculty of Economics  
University of Tokyo  
(CIRJE)

## ■ センター長ご挨拶 ■

### 新センター長に田淵隆俊教授が就任

日本経済国際共同研究センター長・  
大学院経済学研究科教授  
田淵隆俊



日本経済国際共同研究センター(CIRJE)は、日本経済やその関連分野の国際的な共同研究を提供する場として、1998年に設立されました。CIRJEは、東京大学大学院経済学研究科に附属し、専任スタッフに加えて同研究科のスタッフが多数研究活動に参画しています。

CIRJEは、マイクロワークショップ、マクロワークショップなどさまざまなワークショップを定期的に主催しており、ここでは常時最新の研究が報告され議論されています。得られた研究成果は、ディスカッションペーパーとして随時ホームページに公開しております。また、数多くの研究プロジェクトが並行して行われています。なかでも中心となっているのは、社団法人住宅生産団体連合会のご支援による住宅政策研究会です。内外の都市住宅に関する諸問題を分析し、望ましい住宅政策について多角的に議論しております。

CIRJEは、国際的な学術会議も主催しており、海外の大学や研究機関と数多くの学術交流を行っています。欧米の著名な研究者を招いた国際会議に加えて、アジアの主要大学との交流にも力を入れており、本年度から3年間は日本学術振興会の研究拠点形成事業「東アジア地域の金融研究・若手エコノミストの育成拠点」も実施します。これは、日本とアジアの経済的結びつきの高まりを受けたもので、CIRJEの新たな国際化としての役割が期待されています。2011年度は、奥田央教授がオーガナイズした国際コンファレンス「20世紀ロシア農民史」(詳細は次ページ参照)に加えて、2つの国際コンファレンスを主催・共催しました。



第1は、「経済政策の諸問題」と題するコンファレンスで、2011年11月に本学小島コンファレンスルームで行われました。

CIRJEは、ソウル国立大学経済研究所と毎年、マイクロ計量

分析、経済発展、都市経済など幅広いテーマで経済政策に関するコンファレンスを開催しています。本年度は、医療経済や雇用問題など、日韓が抱える経済政策に関する問題や適切な制度設計のあり方を多岐にわたって議論を行いました。ソウル国立大学からChulhee Lee, Byung-Yeon Kim, Biung-Ghi Ju, Sokbae Simon Leeの4名が来日し、報告・討論を行いました。東京大学からは、飯塚敏晃、林正義の2名が論文を報告すると同時に、大橋弘、福田慎一、Seung-Gyu Simの3名が討論者や議長として加わりました。世界経済が抱える経済問題を中長期的な観点から議論されるなど、活発な討論が展開され、貴重な学術交流が実現しました。今後も、CIRJEとソウル国立大学の経済研究所は、さらなる連携を深めていくことが確認されました。



第2は、「コーポレート・ファイナンスおよびコーポレート・ガバナンスのフロンティア」と題するコンファレンスで、日本政策投資銀行および財団法人統計研究会との共催で、2011年11月に日本政策投資銀行本店会議室において行われました。この分野で第一線の学識者が内外から多数参加し、企業の資金調達における金融機関や資本市場の役割、企業に対するコントロール権のありかたなどの問題について最新の研究成果を報告するとともに、参加者間で忌憚のない意見交換を行いました。海外からは、Raghavendra Rau (University of Cambridge), Steen Thomsen (Copenhagen Business School)ら10名が来日し、報告・討論を行いました。

CIRJEは本年度以降も、これまで以上に、積極的に国際比較研究の視点を打ち出し、内外の研究者に共同研究の場を提供し情報を発信し続けたいと思っています。CIRJEの今後の発展に向けて、関係各位から一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

CIRJE Newsletter

## 目次

センター長ご挨拶  
新センター長に  
田淵隆俊教授が就任

■  
コンファレンス開催報告  
20世紀ロシア農民史

■  
客員スタッフより

■  
CIRJE  
ディスカッションペーパー  
シリーズ

■  
客員スタッフ

■  
スタッフ

## ■ コンファレンス開催報告 ■

### 20世紀ロシア農民史

(2011年11月26日)

2011年11月26日に、小島ホールのセミナー室で、日露国際コンファレンス「20世紀ロシア農民史」が開催されました。この国際コンファレンスは、過去には、2002年11月、2003年11月の2度開催され、



このときの成果は、CIRJEの研究報告書シリーズ第2号(CIRJE-R-2)として2005年に公刊されました。それは400頁近い全編ロシア語の論文集で、ロシア人7人、日本人9人、計16人が各人の研究成果を公刊しました。それは、ロシアの学界で思いがけなく広範囲に知られるところとなって、高い評価を受けました。そこで、その延長として開催したのが、同タイトルの昨年11月の日露国際コンファレンスでした。今回は、長年の友人であるIrina Koznova博士(Institute of Philosophy, Russian Academy of Sciences)とViktor Kondrashin教授(Belinsky Penza State Pedagogical University)と、スターリン時代の「クラーク」の追放先のひとつであるヨーロッパ北部地方の研究者としてGalina Dobronozhenko博士(Syktvykar State University)の3名



が招聘されました。およそ20名の参加があり、ロシアからの研究者3名と、日本人研究者3名、広岡直子(東京外国語大学)、崔在東(慶応大学)、浅岡善治(福島大学)の計6名の報告があり、それをめぐって質疑応答がおこなわれました。Koznovaは20世紀の農民の意識の変化について、Kondrashinはスターリン時代初期(1932~33年)における飢饉について、Dobronozhenkoは、弾圧された「クラーク」の概念について、広岡は帝政期の農村の医療について(日本の問題との比較のなかで)、崔は農村の自治の問題のひとつである防火について、浅岡は1920年代の農村通信員について報告しました。報告と討論においてはロシア語を使用言語とし、各報告に対して、活発な議論がおこなわれました。そこに提出された報告者6名の論文、および特別に寄稿された3論文(うち1論文はモスクワ大学Nina Rogalina教授の寄稿)は、CIRJEの研究報告書シリーズ第9号として刊行され

ました(やはり全文露文)。タイトルは、『20世紀と農村ロシア』第2部(The 20th Century and Rural Russia. II. CIRJE-R-9)です。

## ■ 客員スタッフより ■

[http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/people/07people\\_j.html](http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/people/07people_j.html)

当センターでは国内外の大学、研究機関から研究者の方をお迎えしておりますが、今回は2011年度客員スタッフとして滞在された皆様に、当センター滞在の感想を伺いました。

### 客員教授

Department of Economics, University of Montreal

Marc Henry

(2011.10.3 - 2012.2.1 滞在)



東京大学とCIRJEへの滞在も2度目となった今回、私はすぐにその素晴らしい研究環境を楽しめるようになりました。金色の銀杏の葉や枝を広げた重厚な楠、花盛りのヒマラヤ桜の下をそぞろ歩いた後、三四郎池の鳥達の音楽に耳を傾けながら新しく機能的な小島ホールへ入り、快適なオフィスで幸せな気持ちで一日の仕事を始めたものです。

アクティブで世界的に名高い研究者達との刺激的な議論や、厚谷さん、田中さんのサポート、そして刺激的なセミナーシリーズ(新しいマイクロ実証分析ワークショップでは、コロンビア大学在席時代の教え子との再会を果たしました)、これらは私の滞在を実りある、非常に生産的なものにしてくれました。

CIRJE滞在中に行った多くの研究プロジェクトのうち、特に3つここで触れる価値があると思うものがあります。まず、不完全競争のゲーム理論モデルや社会的相互作用というネットワークなどの、戦略的相互関係のモデルにおける推定手法に関する方法論的研究は、現在CIRJEディスカッションペーパーCIRJE-F-838に収められ、J6NIS 2009のデータに基づく日本のイノベーション活動モデルの推計に関する大橋先生との多岐にわたる議論に結びつきました。

また、市村先生とは現在CIRJE-F-835に収められているような、離散選択モデルの方法論的な研究の発展途上国における教育および移住の決定などに関する応用について刺激的な議論も楽しみました。最後に、関連はしているけれど代替的ではない複数のリスク、例えば貨幣的なリスクと環境リスク、の計測に関する研究は現在CIRJEディスカッションペーパーCIRJE-F-836となっていますが、この研究の一環としてDEVASTプロジェクトに関わり、石巻や他の津波による被災地域を訪れる機会につながりました。

一方、東京での生活は、研究に明け暮れるだけのものではありませんでした。私の息子が白金にある素晴らしい神応小学校に戻ったことで、たくさん学校行事(特に餅つきが思い出に残りました)にも参加することができ、日本文化に対するかけがえのない理解を得ました。これはこの東京大学においてさえも味わうことのできなかった経験です。最終日、まだまだ去りがたい気持ちで構内に掲げられた入試の掲示板を眺めつつ、CIRJEの研究者やスタッフの皆様の毎回のホスピタリティに思いをはせて、またすぐにここに戻ってこれたら…と願うのでした。

## 客員准教授

香川大学経済学部

杉本佳亮

(2011.4.1 - 9.30 滞在)



昨年の4月から9月の間、幸運にも CIRJE で研究する機会を頂きました。震災の直後だったので不安な気持ちもありましたが、福田慎一先生や田中公子さんをはじめとしたスタッフの方々のご協力により、スムーズに事前の手続きを済ませることが出来ました。田中さんには、CIRJE 滞在中も事務手続きや資料の取り寄せなど、大変お世話になりました。

CIRJE において取り組んだ研究テーマは、教育投資と人口成長、経済成長の相互依存関係です（中川雅央氏との共同研究）。先行研究で議論されてきた「出産＝子供の量への不可逆的な投資」という点に注目し、出産後にわかる子供の能力が予想外であった場合に教育投資が過剰や過小になってしまう可能性について分析しました。経済発展初期では子供を予想外に多く産みすぎることによって過小教育投資、経済発展後期ではその逆で過剰教育投資となり、そのような状況下では過小教育投資のまま経済が停滞してしまう「貧困の罠」が出現することを示しました。これらの成果を7月の Macroeconomics Workshop にて発表し、参加された方々からの貴重なコメントにより研究を更に良い方向に進めることが出来ました。このワークショップがきっかけとなり、理論的な結論の直感的な解釈を再考することになりました。またセミナーの後の食事会では、福田先生、加納隆先生、沈承揆先生から大変有意義なお話を伺えました。

このように、多くの方々のご厚意により私の CIRJE での研究活動はとても充実したものになりました。本当にありがとうございました。今後も研究機関としての CIRJE の発展をお祈りしています。

国際大学大学院国際関係学研究所

宮本弘暁

(2011.10.1 - 2012.3.31 滞在)



縁あって2011年9月から半年間、客員准教授として CIRJE にお招き頂きました。訪問中は、素晴らしい環境のもと研究に専念することができ、大変感謝しております。とりわけ、諸先生方との学術的交流は刺激的で、今回の訪問を大変有意義なものにしてくれました。

CIRJE 滞在中は、経済成長が失業に与える影響と労働市場の循環的特性をサーチ・マッチングモデルの枠組みで分析する研究を進めました。これらの研究はドイツ・マンハイム大学の高橋悠也講師との共同研究であります。その研究成果の一つとして“On-the-Job Search, Endogenous Job Separation, and the Labor Market Dynamics: A Quantitative Assessment”をワークショップで発表させて頂きました。ワークショップでは多くの方から貴重なコメントを頂き、また活発な意見交換をすることができ、私共の研究を大きく一歩進める機会になったと思っております。また、世界のリーディング・ユニバーシティでもある東京大学で発表の機会を頂くことができ、研究者として大変光栄に思っております。

最後に、このような貴重な訪問機会を紹介してくれた友人でもある経済学研究科の Sim 講師、CIRJE センター長の福田慎一先生、そして滞在中、事務手続きを円滑に行って下さった厚谷つかさ、田中公子の両氏に心から感謝申し上げます。また、CIRJE がこれまで以上に、国際的な研究発信の場として発展することをお祈り申し上げます。

## 短期客員研究者

北海道大学大学院経済学研究科

工藤教孝

(2011.10.24 - 10.30 滞在)



CIRJE 滞在中、私は経済学研究科の尾山大輔氏との共同研究を行い、グローバル化の進む経済における雇用に関する理論モデルを構築し、そのモデルの性質について分析を進めました。その研究において、私たちはスタンダードな国際貿易モデルを拡張して労働市場に摩擦を導入することで、硬直的な労働市場を持っている国とそこで操業する企業が国際競争にさらされる場合、生み出される雇用にどのような影響が出るのか、また起業活動にどのような影響が出るのかを分析しました。分析結果を経済学研究科の都市経済学ワークショップで報告し、専門家の先生方から多くの貴重なコメントをいただくことができ、CIRJE 滞在によって共同研究が大きく前進しました。

Kellogg School of Management,  
Northwestern University

渡辺安虎

(2011.11.13 - 11.19, 2012.2.27 - 3.3 滞在)



CIRJE では経済学研究科の飯塚さんと、日本の医師偏在、特に産婦人科医と小児科医の偏在について研究しています。インターネットで見た日本の産婦人科医療のドキュメンタリーに驚いて始めた研究です。少子化問題が叫ばれる一方で、都会でさえ出産のために産科医を見つけることは簡単でないといわれます。重要な問題であるにも関わらず、実際のデータを用いて産婦人科医や小児科医の“偏在”の実態と、それが健康に及ぼす影響について、詳細に検討した研究はありません。また、この問題は個々の医師がどのようなキャリアパスを描くのかにも直結しており複雑です。CIRJE 滞在時は、日本の全ての医師を過去30年間追跡したデータを用いて、この問題に取り組んでいます。

# CIRJE ディスカッションペーパーシリーズ

[http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp\\_j.html](http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp_j.html)

当センターでは2つのディスカッションペーパーシリーズ（Jシリーズ：日本語、Fシリーズ：外国語）を刊行しており、2011年10月から2012年3月は、Jシリーズ17件、Fシリーズ27件が刊行されました。発行されたディスカッションペーパーは国内外の大学・研究所等に送付される他、ホームページ（上記URLをご参照下さい）からダウンロードすることも可能です。

## 客員スタッフ

当センターの重要な役割のひとつに、海外からの研究者の受け入れと研究交流促進があります。国内外の優秀な研究者を幅広い分野からお迎えして研究活動を行っております。下記のリストは2011年度後期来訪者の一部です。

### 客員教授

■ Marc Henry (2011.10.3 - 2012.2.1)  
Department of Economics, University of Montreal, Canada

■ 森田穂高 (2011.10.28 - 11.2)  
School of Economics, Australian School of Business,  
University of New South Wales, Australia

■ Soumendra Nath Lahiri (2011.11.7 - 11.11)  
Department of Statistics, Texas A&M University, USA

■ Robin W. Boadway (2011.12.3 - 12.10)  
Department of Economics, Queen's University, Canada

■ Sokbae Simon Lee (2011.12.19 - 12.24)  
Department of Economics, Seoul National University, Korea

■ Muni Shanker Srivastava (2012.1.23 - 1.27)  
Department of Statistics, University of Toronto, Canada

■ Olivier Tercieux (2012.2.20 - 2.22)  
Centre national de la recherche scientifique (CNRS),  
Paris School of Economics, France

■ Yi-Chun Chen (2012.2.20 - 2.22)  
Department of Economics, National University of Singapore,  
Singapore

■ Eric Weese (2012.3.4 - 3.15)  
Department of Economics, Yale University, USA

### 客員准教授

■ 宮本弘暁 (2011.10.1 - 2012.3.31)  
国際大学大学院国際関係学研究所, 日本

### 短期客員研究者

■ Kui-Wai Li \* 野村財団・短期客員研究者  
(2011.11.23 - 12.1, 2012.1.22 - 1.28)  
Department of Economics and Finance,  
City University of Hong Kong, Hong Kong

■ Viktor V. Kondrashin \* 野村財団・短期客員研究者  
(2011.11.24 - 12.1)  
Department of History, Belinsky Penza State Pedagogical  
University, Russia

## スタッフ

### 専任スタッフ

#### センター長

田淵隆俊 (東京大学大学院経済学研究科)



### 教授

市村英彦 (東京大学大学院経済学研究科(左))

国友直人 (東京大学大学院経済学研究科)

澤田康幸 (東京大学大学院経済学研究科(左))

福田慎一 (東京大学大学院経済学研究科)



### 顧問

翁 邦雄 (京都大学公共政策大学院教授)

神田秀樹 (東京大学大学院法学政治学研究所教授)

西村和雄 (京都大学経済研究所特任教授)

浜田宏一 (Tuntex Professor of Economics,  
Department of Economics, Yale University)

水口弘一 (経済同友会終身幹事、野村総合研究所顧問)

### 運営委員会

#### 運営委員長

田淵隆俊 (東京大学大学院経済学研究科教授)

#### 運営委員

伊藤元重 (東京大学大学院経済学研究科教授)

神谷和也 (東京大学大学院経済学研究科教授)

谷本雅之 (東京大学大学院経済学研究科教授)

福田慎一 (東京大学大学院経済学研究科教授)

渡辺 努 (東京大学大学院経済学研究科教授)

## CIRJE Newsletter No.17

2012年4月

東京大学大学院経済学研究科附属

日本経済国際共同研究センター

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

tel +81-3-5841-5644 fax +81-3-5841-8294

<http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/indexj.html>